民主香川
定価　月100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町3丁目13－14
☎(087)834-7311

市民運動が県政動かし
タブレット半額補助

タブレット端末を2025年度の入学生から自己負担にする問題で無償化を求めて高教組など様々な民主団体や保護者らの取り組みが県政を動かし、県は来年度からタブレット端末の半額の補助を表明しました。

6月の香川県議会での香川県高等学校教職員組合（県高教組）の公費負担の継続を求める請願は、自公の反対多数で不採択となりました。請願書の紹介議員は日本共産党の樫昭二県議らで、樫県議は賛成討論をしました。

11月6日には、公費負担の継続を求める保護者の有志や新日本婦人の会香川県本部（県新婦人）などが取り組んだ署名が1万5216人分、教育委員会に提出されました。

7日の「明るい民主県政をきずく香川県連絡会」の予算要望では、県新婦人や香川県教職員組合がタブレット端末の公費負担を求めています。

これらを受け7日、香川県教育委員会は、公立・私立全ての生徒を対象に購入額の「半額程度」を補助する方針を表明。予算額はおよそ3億円となる見通しで、11月定例県議会に補正予算案を提出する予定です。

県高教組の十河浩二委員長は「今回の半額補助は、全国的に見ても飛び抜けた成果です。保護者、県民としっかり手を結んだ私たちの真っ当な要求が、県を大きく動かしました。ご協力いただき心から感謝します。しかし、まだ半額。国が一方的に押し付ける教育政策の費用を保護者や自治体が負担する道理はありません。国庫による全額負担、あるいはこの政策そのものの撤回を求めて、県高教組は保護者、県民と共に引き続き取り組みを強めていく決意です」とのべました。

県新婦人の小早川加代子会長は「会員からは『たったの半額か！』の怒りの声や、『でも半額は出たんや』との賛否が分かれる意見が出ました。高等教育の無償化に向けて、新たな闘いを始めていきます。署名集めの中心で頑張っているお母さんたちは目を輝かせていました。今後、学習会を開いてもっと署名を集めます。『数は力』です。すぐに結果は出なくても、今のこの怒りがやがて国家を動かせる力になることを信じて、更に仲間を増やしていきます」とのべました。

太鼓台

近年、SNSやネットの世論が現実に大きく反映された選挙は3つ。東京都知事選挙。衆議院総選挙、兵庫県知事選挙です。

ネットやSNS上で、ファクト（事実や根拠がある真実）が少数派となり、デマやフェイクニュースが真実だと多数派の世論がつくられる現象を「ネット・SNSファシズム」と呼んでいいかもしれません。情報の発信者側は、文字通り大量の「物量」で真偽を問わない情報の拡散をする。受信者は、既存のメディア（新聞やテレビなど）や政治を敵視し情報を信じないとする一方で、フェイクやデマの発信源のネットやSNSの情報は信じる。多くの「いわゆる普通の一般人」がこの罠にドはまりすることがとても恐ろしい。ネット・SNSの空間をウソが真実を駆逐する無法地帯にさせないよう、ファクトチェックされた事実、分析や検証の記事、正当な議論・反論など健全な民主主義をつくる言論でたたかっていきましょう。（ま）

【3面から】科学的知見に基づいて今後の気候・エネルギー政策を策定することが求められています。

3年ぶりのストライキ

高松赤十字病院労組と香川県医労連は高松市の同病院で7日、医療従事者の処遇改善でよりよい医療を勝ち取ろうと3年ぶりのストライキをしました。

参加者は「香川県内で救急車受け入れ件数が1番多い赤十字病院ですら赤字経営で一時金の支給が苦しく、人材確保が難しく公的医療機関として地域医療を守ることが難しい」と訴えました。

ストは、世間へのアピールと行政に対し、社会保障費を増やし診療報酬の抜本的引上げから、医療従事者の賃上げや大幅増員の環境づくりと患者・利用者の負担軽減などいのちと暮らしを守る政治・政策への転換を求めるものです。

【演劇鑑賞会の案内】 日本劇団協議会主催

イッツフォーリーズ公演　音楽=いずみたく
『ミュージカル　おれたちは天使じゃない』

大晦日の夜に天使が呼んだ奇跡。1974年から全国で1200回以上上演されてきた名作を新演出でリニューアル上演！
◎11月24日（日）13時30分開演
◎サクラートたどつ
◎料金：大人5,500円　学生3,000円
※問い合わせ先：090-1328-7610 宮本

郷土史辞典「笠居郷探訪」（一部抜粋）㉑

秘匿飛行場

著者　立山 信浩

大戦末期に全国に計画、設置された特攻用の偽装・代用飛行場。比較的海岸に近い千メートル程度の直線がとれる幹線道路を拡張して本土決戦に向けての飛行場に改造せよという軍の命令を受けて、西日本各県が突貫工事で作った。

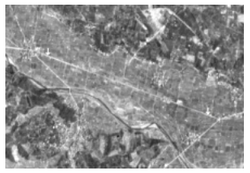
香川県には屋島飛行場、端岡飛行場、飯野飛行場などが勤労奉仕により急造された。密かに屋島飛行場と名付けられたのは、観光道路の新川橋から東方向に1㎞余りの道路幅を拡張し、橋に設置されていた常夜灯などを撤去して造った代用飛行場。屋島神社参道に秘匿した戦闘機を、高松（林）飛行場まで運ばずに直接離陸させるための離陸専用飛行場であったが、結局一度も使用しないまま終戦となった。

※屋島飛行場をはじめ県内の秘匿飛行場は、離陸専用の　飛行場としてつくられ、初　めから着陸は出来ないもの　としていた。

※　端岡飛行場（国分飛行場）は端岡～国分間の県道を使った秘匿飛行場。飯野飛行場は飯野村山の谷から西への県道を滑走路に当てたものであったが、いずれも完成を待たずに終戦となった。

※　秘匿飛行場という名称にもかかわらず、米軍は早くからその存在を知っており、屋島飛行場もキライ（帰来）エアフィールド、ヤシマエアフィールド等と名付けて航空写真上に明示していた。

『昭和20年の4月に坂出の県立工業学校に入学して、8月に終戦です。その間の4カ月は毎日が勤労動員で飛行場建設に通いました。学校に行くのは教練の日だけです。勤労動員は飯野飛行場の建設現場で5人1組になって、地ならしの石のローラーを引くのです。毎日毎日、石のローラーを引きました。向うの端が見えないくらいの広い敷地いっぱいに人が出て作業していましたが、トラックも重機もない人海戦術でしたから、ほこりも立たない音もしない、静かな大工事です。



建設作業中に何回かグラマン機の機銃掃射を受けました。櫓の上の見張りが鳴らす「グラマンが来るぞ」という半鐘を聞いたら、我先に飯野山に逃げ込むのですが、機銃の弾が土に突き刺さって迫ってくる連続音の恐ろしさは忘れられません。私たちの宿舎は飯山の坂本小学校の講堂でした。広い講堂にロープを渡して蚊帳をいくつも張って、作業班の5人が1つの蚊帳に入って寝ました。飯野飛行場以外にも、国分寺の飛行場や高松の林飛行場にも勤労動員で行きました。どちらも坂本小学校から歩いて行きますから、遠い林飛行場などは到着後の作業時間がほとんどありません。それに工具も道具もありませんから、やることと言えば手で小石を拾うことだけです。

飯山から高松まで歩いて小石拾いに行くことをバカバカしいとは思いませんでしたが、ただ、林飛行場に着いて、竹で編んだ飛行機が並んでいるのを見たときはショックでした。完成していない飯野飛行場や国分飛行場に飛行機がないのは当たり前だけど、林飛行場に行けば本物の飛行機が見られると思っていましたから、竹の飛行機しかなかったのは、本当にショックでした。』